

「空港」周辺を勉強

現地で説明を聞く

空港対策特別委員会

「五十八年度の早い時期の開港」をめざす高知空港は、いま、滑走路工事が急ピッチで行われ、周辺整備事業も、地元との調整をしながら着々と進められています。

たことでもあり、五十六年の復習と五十七年度の計画は握るため一月十二日、関係機関の出席を要請して勉強、午後には現地に出て説明を聞きました。

企画管理部長、南国市から小笠原市長らが出席、それぞれの分野で次のように語りました。

高知県小松部長の話
 本県工事、県道、秋田川など全面的な工事が着工されている。五十七年度は、国の理解を得て、要求通りの三十四億円余りが予算化されますので、「五十八年度の早い時期の開港」も可能だと考えています。

中島高知空港長の話
 航空局の担当は、管制や無線、消防などいわゆる保安施設です。保安施設の整備は、五十四年度から順次進めてきましたので、五十八年度開港に対応できるまでになっています。

小笠原市長の話
 各種工事が進んでいるが、先が見えたといっても、困難なものは残っている。空港整備は国や県の仕事であるが、南国市の行政面には多くの煩雑な仕事が生じます。国の施設を南国市に建設する際、必ず市に負担がかかるのは当然で

全力をつくします。
 神田高知港事務所長の話
 空港の土木工事を担当しています。五十六年度予算三十八億円は、ほとんど契約が終っています。五十七年度は約三十三億円をかけ、秋田川、県道の暗きよ工事、田村川、滑走路の盛土と舗装を計画しています。早期開港のためには滑走路の早期完成が必要です。課題は、短時間に新しい滑走路へいかにチェンジするかということ、市民の要望に注意しながら進めていくということです。

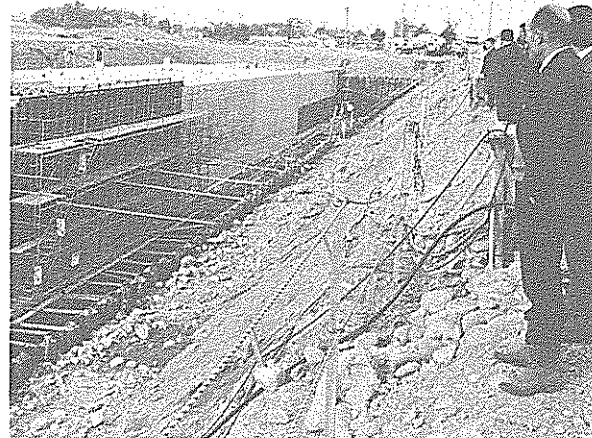
遺跡の発掘調査は、秋田川以西で行っていますが、工事を遅らせないために、文化財をおろそかにしているということはありません。今後も十分気を付けます。

このままの経過報告や今後の計画を聞いた委員は、午後には空港の管制塔やレーダー室をはじめ、滑走路の盛土工事、秋田川の暗きよ工事などの進みぐあいを見学、空港関連工事の大きさを改めて認識していました。

つばきに見学

現地を

が、市民から見れば、一種の迷惑施設です。
 どうも南国市には、計画の詳細や事業の進捗がはつきりつかめない気がします。
 切戸放水路については、県との話し合いで「事業主体は制度上南国市だが、空港関連なので、市の負担分は県が肩代りする」との約束ができていた。約束を「覚え書」にするという条件で、昨年議会を通していただいているが、県からはいつこうに文書が届きません。いま、助役と事業の一時ストップを含めて検討しています。
 ※以上のように、空港本体の工事は順調に進んでいるものの、騒音対策や切戸放水路などの大きな課題が残されています。
 市民の側にたった「南国市政」が、これからどう展開されていくのか。市民は、これからの動向に大きな関心を持って注目しなければなりません。



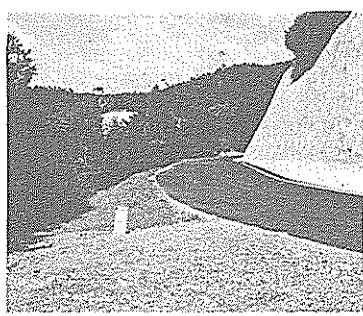
秋田川の暗きよ工事を見学する委員ら

成合一天行寺一土佐山田 工事用道路が完成

四国横断 自動車道

早期開通が望まれている四国横断自動車道（大豊～南国間約二十キロ）の工事用道路（成合～天行寺～土佐山田）がこのほど完成しました。

完成したのは従来の成合～天行寺（市道）延長五百メートルを幅六・五メートルに改修するとともに、天行寺～土佐山田間延長六百メートル、その時期は少し延びるようです。



完成した工事用道路

（南国・山田境界付近）
 本線（高速道）が完成した後は、市道として南国市が受け継ぐことになっています。

工事用道路の完成（南国市関係四線のうち一線）によって、本線着工に一步近づいたと言えます。

現在、大豊町でトンネル工事を行っています。詳細設計もできました。工事用道路八本のうち三本を工事中です。

これからは、用地買収と平行して土留場の借り受け地の交渉、地元との各道路の折衝などを経て、最終的な計画書がつくられます。

開通は六十年の予定でしたが、五十七年度発注工事が遅れそう、その時期は少し延びるようです。

黒沙ライン

一部で工事始まる

⑦わがまちっていく変わる

黒沙ライン計画は、観光や産業の開発のもとになる大平洋岸に面した国道や県道（東は甲浦から、西は宿毛までの延長約四百三十キロ）を整備しようとするものです。

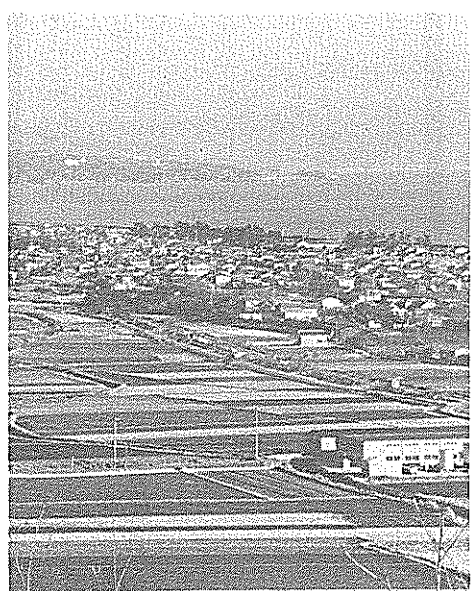
南国市関係では、十市から久枝までの県道春野、赤岡線八・二キロにバイパスをつけようという計画が決まり、いま早期完成をめざして工事が進んでいます。

この県道春野、赤岡線は、十市、浜改田、前浜、久枝を通って、県下一の施設園芸地帯の基幹道路と

して、またこれらの地区の生活道路として重要な役割を果たしてきました。
 しかし、車の増加や高知空港、高知大学農学部、高知工専などの連絡、観光開発などを考えると、現在の道路ではどうしてもまばききれないため、あらたに図のようなバイパス建設を決定したものです。

計画では、新しくつけられる道路は幅12メートル（車道）二車線、自動車・歩行者道となります。

工事を担当する高知県南国土木事務所では、「沿線のみさんの



工事が進められている三和地区

